

「 清明節でのひと時 」

上海駐在員事務所

舛本 誉人

「ニ－ハオ！」 今回は中国のお盆（お墓参り）である清明節についてご紹介します。

清明節は春分の日から 15 日目の節日、太陽暦の 4 月 5 日頃にあたり、「万物が清々しく明るく美しくある」そんな季節の到来を祝う日とされています。この日、中国においては一族が先祖の墓に集まり、墓所を綺麗に掃除し、墓前に茶菓子などを供え、皆で先祖とともに楽しく過ごすのが習わしとなっています。今年の清明節は 4 月 4 日で、今回偶然にも友人の墓参りに同行させて貰えたので、簡単に中国のお墓参りについてレポートします。

友人の父が火葬され眠る墓所は、上海中心部から車で約 45 分、田園風景の中にポツリと存在する霊苑の中にあります。墓標に祀られているのは、彼の両親ですが、ふとここで日本とは大きく違う習慣に気付かされました。それは、霊苑内の墓所に祀られている墓標が、ほぼ全て夫婦単位になっていて、日本のように先祖と共に 1 つの墓所に入る習慣は、現在の中国には無いということです。その理由は中国の習慣というよりも、むしろ中国の土地所有権という事情が大きく関係しているようです。

中国では国民の土地所有が認められていません。土地は全て国家の所有物とされ、国民は国家から土地を期限付きで賃借することで土地の利用を認められます。賃借期間が到来すると土地は国家へ返さなければならず、これは墓所においても同様です。つまり墓所の賃借期間が到来する毎に、子孫が賃借期間の延長を行わない限り、墓所は取り壊されることとなります。これは未来永劫、今の墓所に入ることが難しいということの意味ですが、どうもこうした合理的な考え方には寂しい気持ちにさせられます。ちなみに友人の両親の墓地賃借期間は 70 年とのことでした。

お墓参りに同行させてもらった後、霊苑の近くにある公園へ足を運んでみました。そこは桜の花がまさに満開で、「万物が清々しく明るく美しくある」、そんな清明節にふさわしい光景が広がっていました。

中国は今、春爛漫です。こんな素晴らしい季節を先祖と共に楽しく過ごす中国国民、果たして彼らの皆がこうした合理的な考え方の持ち主なのでしょうか。

霊苑風景



筆者撮影

墓参り風景



筆者撮影

墓地近くの公園に咲く桜



筆者撮影